

「写真展が開催されます」

このたび、ご門徒の山内和子さん（山内節子さんの娘さん）が写真展を開かれます。生涯の趣味、また糧として取り組んでおられる登山を通しての想いを、写真・書道・短歌の作品にされたそうです。福井においでの際はぜひお立ち寄りください。入場は無料です。

写真展 山内和子の歩み



- ・会期 今月7日（水）～12日（月）
- ・時間 午前9時～午後5時まで
（入館は16時30分まで）
- ・最終日は15時30分まで

- ・会場 福井県立美術館 地下貸展示室
（福井市文京3丁目16-1）

「依りどころがある人生を」

※本願寺新報から転載しました（一部改変しております）。

「健康・経済・孤立」これが65歳からの年代の三大不安だそうです。たしかに「病気の心配や体力の衰えを感じる」「年金生活になった」「職場や子育てのネットワークから外れる」といった変化が深刻な不安をもたらせます。さらに「死別」にかかわる悩みも増えます。葬儀やお墓にまつわる疑問もあるでしょう。

しかし振り返ってみると、これらは突然降ってわいた問題ではないはずです。もつと以前から、いや生きていく以上抱え続けてきたはずなのに、日々に追われて目を向ける余裕がなかったか、たまたま意識せずに過ごしてこられただけではないでしょうか。

お釈迦さまは「生老病死」の苦にまみれて生きながら、その苦しみの中にあることにも気づかず貪りや怒り、愚痴に溺れて生きていくと、私の有り様を見抜かれました。そして、そんな私たちが互いに関わりの中で支え合い、寄り添い生きていくと。

それはあらゆる人に共通する姿ですから「お寺」とはお釈迦さまの教えを通して私の人生を聞き、共に悩める場といえます。いつまでも健康でいることはできないという現実と向き合い、経済的満足が本当の幸せかを問い、孤立と思いついていた人生でふと孤独ではない温もりを知る。

『仏教に出会う』の「早い・遅い」「必要・

不必要」「有益・無益」はありません。「本当に大切なことは何か」と問い続ける中で「気づいたら『心の依りどころ』をいただいていた」とうなずける人生、「それが私には仏教だった」なら素晴らしいことです。
(1月1日号)

南無阿弥陀仏の名号となって私を喚ばれ、また私の口から「なまんだぶ」と声になって出てくださる阿弥陀さま。どんなときでも私を見捨てることはないし働き通しです。病気になるたらどうしよう、死んだらどうなるんだらう……と心配する必要がなくなる生き方をめぐまれる、これこそがお念仏をいただいて生きるということではないでしょうか。「なるようにしかならない」ではなく「なるようになる！」人生を南無阿弥陀仏とともに過ごさせていただきましょう。なにかご質問、ご意見、相談事などあれば遠慮なく住職の携帯に。すぐかけ直します。昨年「カケホーダイ」にしましたので、いくらかけても定額です。遠慮せずに「かけ直して」と言ってください。

住職携帯 090-8667-7902
メール soichiro4989@gmail.com